



チャレンジ・ノー・チョークマーキング



連続伐倒…私の担当木はピンクのテープの木です

今回の専門コースは、長谷村は鹿嶺高原の二ヶ所の村有林をお借りして、村営雷鳥荘での自炊合宿となりました。一日目の林分は、頂上より少し標高の下がった「ぼんてん岩」方面の林道に面したカラマツ林。傾斜下方への伐倒。二日目・三日目は頂上の混交林。景観を回復してアルプス

『アルプスを望む森にて』

専門コース第二回開催報告

を望め、誰もが中に入っている森に。

実際の作業にあたっては、様々な規定の中で、技術の向上を目指しました。伐倒木マーキングと保残木マーキング。使用している道具は、チェーンソー・とび・ロープの基本三種+ラダーのみ。同

方向へ伐倒可能な木の選択と連続伐倒。伐木造材の時は、腰に何も付けないで。役割分担による一組での一連の作業。作業終了が連絡されたら自発的にチェーンソーのメンテナンスを…などなど。このような作業規定を通して、選木の感性や作業段取り、シンブルでスマートな作業について何か感じて頂ければと思います。

三日間ご苦労様でした。そ



発行

KOA 森林塾

(事務局)

TEL 0265-70-7065

編集 早川清志

題字 島崎洋路

して、鹿嶺^{かれい}な森を創造して頂き、有難うございました。



チェーンソー・とび・ロープ…さてこのかかり木はどうやって？



フィードバックは欠かせません！！

今回の内容

専門コース第二回

7月3日(木)

～5日(土)

一日目

8時15分

長谷村役場前集合。8時30分集合予定が皆さん早めに集合されたので、時間を繰り上げて鹿嶺高原に移動。

8時45分

鹿嶺高原・雷鳥荘前駐車場にて、開催挨拶と日程説明の後、軽トラックに分乗して、現場へ移動。

9時30分

現場着。全員で林道から間伐対象林分を下見、緩傾斜地のカラマツ林分。プロット調査なし、本数間伐率30%、伐倒木マーキング、傾斜下方

10時30分 各班毎に伐倒木マーキングの後、伐倒開始。

12時 林道にて昼食。

13時 伐倒再開。

15時30分 作業終了。雨がポツポツ降り出したので急ぎ雷鳥荘前駐車場へ。

16時 自発的に木陰でチェーンソーメンテナンス。

16時30分 終了・解散。入浴

16時30分 終了・解散。入浴



誰もが森の中へ入っていけるように

組は「仙流荘」へ。残った方々で夕食準備。今日のメニューは、野菜炒め・麻婆茄子・豚汁・漬物：食材が大量で…。

その後 消灯は21時30分という雷鳥荘の規定ではありましたが、合宿だし、久しぶりに集ったことだし…。

二日目

6時30分 宿泊者起床。朝食。納豆・生卵・のり・野菜・みそ汁のメニュー。

8時30分 雷鳥荘前駐車場集合。日程説明と作業規定説明。今日の現場は雷鳥荘奥の鹿嶺高原頂上尾根混交林地。

9時 現場にて作業要件説明。誰もが森の中へ入っている、アルプスの眺望が開けるよう、カラマツと広葉樹の樹形の良い木を中心に残す。全員で保残木マーキング。

9時30分 班毎に山割り後、各班一本の検尺棒を作成。今日の道具は、昨日の三種とワンタッチトラダー。

10時 五・六本インストラが伐倒した木を、造材係・検尺係・木寄せ係に役割分担

して交代作業。

12時15分 雷鳥荘に戻り昼食。「ざんざ亭」謹製お弁当とみそ汁。

13時15分 伐倒再開。一人二人以上の連続伐倒の伐木造材係、その後ろを検尺棒を2mを指示しながら枝片付けの検尺係と造材された短材を木寄せする係が続く。保科先生・島崎先生いてもたってもいられずマイチェーンソーで作業に参加。

16時 作業終了。チェンソーメンテナンス。

16時30分 解散。今日は宿泊者全員が仙流荘のお風呂へ。

18時30分 夕食準備。カレー・鶏肉ソテー・ミニトマトときゅうりとらっ



伐木造材・宮沢さん、検尺・和辻さん…あれ木寄せの山本さんは？

16時 作業終了。チェンソーメンテナンス。

16時30分 解散。今日は宿泊者全員が仙流荘のお風呂へ。

18時30分 夕食準備。カレー・鶏肉ソテー・ミニトマトときゅうりとらっ

きょう。

その後 管理人さんによる強制消灯にも負けず、暗闇の中で、コポコポ…コポコポ…プハ…。

三日目

6時30分 宿泊者起床。朝食。今朝はよく晴れて仙丈・甲斐駒・中央はもちろん御岳や乗鞍・槍・穂高の北アルプスまで眺望が開けていました。早起きして展望台へ登った方もいらっしやったようです。

8時30分 雷鳥荘前駐車場集合。日程説明。

9時15分 早速伐倒開始。使用道具は昨日と同じ。

12時 現場にて昼食。今日もざんざ亭お弁当。

13時 伐倒再開。

14時30分 作業終了。チェン

ンソーメンテナンス。

15時 雷鳥荘前にてアンケート。質疑応答。

15時45分 閉講の挨拶。三日間ご苦労様でした。そしてなによりケガなく作業して頂いたことに感謝致します。

参加者／池田さん、長部さん、菊間さん、北澤さん、黒岩さん、洲上さん、宮沢さん、山下さん、山本さん、和辻さん

講師／保科先生、島崎先生

スタッフ／大野、川島、後藤、早川、坂野

次回以降の予定

通年コース第七・八回
7月18・19日(金・土)
間伐

いよいよ間伐です。調査・診断／方針決定後、伐倒です。8時30分島崎先生の小屋集合。ますみヶ丘平地林を予定。なお、初日の夕方、希望者で恒例の暑気払いをしましょう。実費必要。幹事さん募集中。

集中コース夏の部

7月31日(木)
～8月2日(土)

KOA森林塾のエキスを集

めた三日間のコースです。樹木分類・測樹から間伐まで盛りだくさんの内容です。

通年コース第九・十回
8月22・23日(金・土)
伐出

間伐で伐倒した木を携帯型ウィンチを使って集材します。また、二種類の林内作業車による集材も体験してもらいます。

リレー通信

山師のひとりごと
小野 隆久



一九九四年頃に、全国的に始まったＩターン林業者の一人となってもう丸九年・この春より十年目を迎えてやっと松の造林作業だけはわかってきたかなあと考えるようになったっており、ふと興味を持ち受けたある講習で「目から鱗の落ちる」衝撃を受けてもう一度初心に戻るべく初心者対象であるのを承知のうえで森林塾を受けてみようと思った



「造林とは？」
数年前ダム建設の見返りに斜度三十五度以上、海拔千二百〜千六百メートルにある二百ヘクタールあまりの笹山を造林するための試験として、

サイクルが二百〜三百年かかって行くことをむりやり五十〜八十年の人間のサイクルにあわせようとしているだけのことでしかなく、さらに山に多くの廃棄物を放置している

次第です。
林業とは本来、木を育て人間が生活するうえで必要な木材を社会に供給することを「なりわい」とするのが本来の姿であるべきなのですが、今や旧営林署の言い始めた「森林の公益性」の名の下に採算性を無視した公共事業と成り下がっています。

二年にわたりある身近な大学の教授の指導の下、一ヘクタールばかりの造林作業を行ったのですが、高さ二メートルを越える一面の笹を幅一メートルで縦縞に切り、残す縞の間隔を二メートル又は四メートルで縦縞の地拵えをして、その後直径十五センチぐらいで長さ七十センチ程度の培養土の入った土嚢を三十センチほどの鉄の杭で固定し、広葉樹の種又は小苗をそれに植樹する作業をしました。一面の笹山を森林に変えるという目的は偉大です。しかし笹山といういかにも保水力のない荒れた山と思うかもしれませんが、笹を刈ってみるとその下十〜二十センチは笹の腐葉土（私も初めて見ました）で保水性もありふかふかしていました。それに笹の中に各種広葉樹や針葉樹が枯れずに天然更新しているので、それをみてつくづく実感したのは、所詮我々のしていることは自然のサイクルが二百〜三百年かかって行くことをむりやり五十〜八十年の人間のサイクルにあわせようとしているだけのことでしかなく、さらに山に多くの廃棄物を放置している

なあということですよ。テレビの取材で、その教授がいかに自分とその生徒たちが全ての作業をしたかのように言い、最後には「笹山の緑化はこれで大丈夫です」と言うのには呆れ果てました。その後の現場がどのようになったかは興味があれば私に聞いてください。
「手入れとは」
私が森林組合に入ってからよく年寄りたちに言われたのは「手入れすればするほど木はよくなる」です。「曲がっているのが頭がなかるうがもったいないから枝をうっておけ」です
どうせ収入間伐を始める前に植林木の六割は切り捨ててしまふのに無駄なことをするなあとつくづく思いました。もちろんそれなりの理由があるのは承知しています。しかし林業、仕事、職業、営利目的で行う以上費用対効果、コスト意識なくして「おまんま」はくえません。
実際、手入れをしても木は良くはなりません。一度曲がった木は決して真っ直ぐにはならないし、頭がなくなれば枝が上に向きますがけして直材にはなりません。ウサギに剥かれた所も時間とともに巻いて最終的に表面から見えなくなるかもしれないがその傷は必ず後々様々な後遺症として現れます。所詮我々に

できるのは良木を守ることと、ほんの少しの付加価値「無節材にする」をつけることぐらいです。
「林業とは」
木をつくるのか、山をつくるのか
重要なのは「高く売れたか」ではなく「利益をあげたか」、「儲かったか」ということです。ほんらいならば保育期間に受け取った補助金を差し引いても利益がでるようであれば真の「林業」とはいえないでしょう。売値が高かろうと安かろうと利益が出たかどうかが重要です。日本でラジアータパインを植えてもいいんじゃないですか？「適地適木」ですって!! ニュージーランドに元々ラジアータパインやサーモンが存在していたかどうか調べてみてください。
「林道、作業道」
「一ヘクタールあたり二百メートルの林道網を推進する」と地元のと建屋さんがうれし涙にむせぶお言葉ですが、新規開設の予算は出てもないのが現状です。従って林道はあるが通れない。落石、雨による深い溝、草雜木の繁殖、整備を依頼しても作業に入るのは決まってこちらの作業が終わりがけした頃。所詮林道開設も林業のためではなく地元建設業者への公共事業と思わざるを得ないのが現状です。
「獣害」
獣害と言うと「自然動物を殺すとはけしからん」と非難されそうですがその被害は今や深刻です。今七十歳前後のOBに聞くと昔はカモシカはめったに見なかった、ウサギや熊の害もたいしてなかったと言います。なぜでしょう？答えは簡単。みんなお金や食料として狩猟の対象でとっていただけです。今は猟師も高齢化して役場に依頼されて仕方なしにやっているのが現状です。私の村で言えば七年ほど前に村内を走るJR中央西線で熊がひかれ、昨年は住宅の庭に熊が進入し、射殺したところ、ニュースで紹介されたところ、たんと全国から「熊を殺すとはけしからん」という抗議の電話が役場に殺到し、役場の人間が「東京のご真ん中に熊を放してやる」と憤慨したそうです。
私の実感では獣害の中でも熊の皮剥は致命的です。なぜなら彼ら太くて真っ直ぐな木しか剥かないからです。元曲がりのある木は決して剥きません。その対策のためにまた廃棄物を山に増やさなければならぬのでしょうか？

「送電線下造林」
造林に全く関心のない地主も送電線下は別、それはお金になるからです。従ってどんな山奥でも電力会社に依頼された支障木伐採した後の送電線下だけは松が植林されます。
「おまえが地主だったら同じ事をするだろう」と言われれば答えに困りますが、日本の電気料金が欧米に比べて高額なのにはわかる気がします。
「造林作業の周年作業の困難化」
とうとう、やっと拡大造林に御上も終止符を打とうとしました。しかしここであらたな問題が発生してきます。拡大造林がない、伐採の減少により伐後の造林もないと言う現状から春先の地拵え、植林がない。初夏の下刈りがない。秋の葉つけもない。冬の枝打ちもない。あるのは除伐と間伐のみと言う状況に追いつめられて来ている。
造林作業だけで食べている森林組合は先がないなあ!!
「林業を生業（なりわい）とするには」
長年の拡大造林のツケとして現在間伐作業が主な作業となっています「数年前までの松食い虫対策事業はなんだったのだろうか？話が長くなるのでやめます」数式はいろいろあるとして計算の結果〇〇%切りなさいと答えがでても早い話が公共事業です。
北海道か、九州か、富士山

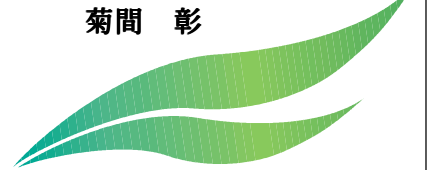
麓(新しい松の産地になろうとしています)などのなだらかな土地でない限り、三十度を超す傾斜のある僅か数ヘクタールの山から何日もかけて線を張り集材したところで何になるのでしょうか。技術の伝承のため? 「石炭産業だねま」で!!」もちろん林齢百年を超す山なら少しは話は違いますが、そうでなければ貧乏人は山を持つな!!サラリーマンの定年後年金生活しながら山仕事をするか、農業、キャンプ場経営、釣り堀、林内での椎茸栽培、沢を利用したワサビ栽培、タラの芽等山野草栽培、(実際にやっている人が居ます)、民宿、ペンション経営等々何かで生活基盤を確保し余暇時間を林業に当てるのが少なくとも個人林家の生きる道と私は考える。いずれにしても農業と同じで法人の経営を推進していかねければ日本の農林業に未来はないでしょう。「補助金をせしめることしか頭のない零細農林業家からは土地を没収すべきです。」森林管理所(旧営林署)は論外として森林組合の人間にもこの期におよんでも殆ど危機感を持ってはいません。森連、公社、公団の言うことさえ聞いていさえすれば大丈夫、大丈夫所詮公共事業だから。



リレー通信

自然学校を知っていますか?

菊間 彰



皆さんは自然学校というところを聞いたことがありますか?

自然学校とは簡単に言うところ、自然の中で楽しく遊ぶことによって、自然の大切さを伝えていくところ」です。学校という名前がつくけれども決してコムズカシイことをやっているわけではなく、例えばカヌーや農家の生活やキャンプなどを実際に体験し「遊びながら学んでいく」のが自然学校の特徴です。この自然学校が、日本でもここ数年で急



速に増えてきているんです。数年前は日本中で百校に満たなかったのが、今では千校以上あると言われています。かくいう僕も「ホールアース自然学校」というところで働いています。僕は富士山の麓に事務所を構え、富士山周辺を本拠地として様々なプログラムを実施しています。例えば、いろんなウワサのある青木ヶ原樹海と溶岩洞窟の探検ツアー、富士山の自然ガイド、カヌー、気球、クライミングなどなど。また沖繩の名護市には沖繩校があるのでたまに沖繩にも出張し、カヌーでのマングローブトレッキング、鍾乳洞探検、海の生物観察などを行っています。

ところが、自然学校の仕事はそういったガイドやインストラクターの仕事だけではなく、例えば、時に僕は百姓にもなります。田んぼで稲を育て、それをプログラムとして参加者と一緒になって働きます。この間は開成中学校の生徒たちと一緒に代掻きをし、ボランティアの学生リーダーと一緒に田植えをしました。ほとんど田んぼに入ったことのない学生たちは、泥まみれになりながら最高の笑顔を見せてくれました。また牧童にもなります。僕は千坪の敷地内にロバとポニーとヤギ七頭とウサギ四羽に犬二頭、それにニワトリを三十羽ほど飼っています。時々僕は彼らをトラックに乗せて、いろんなところに出張します。「移動牧場」です。動物たちは移動でつかれた体に鞭打って、子どもや大人たちに動物とのふれあいを提供してくれます。またあるときには、仙人にも開拓者にもなります。放置された森に入り間伐をし、打ち捨てられた間伐材をもらってきます。そしてそれらの材を使って工作やキャンプ場の整備をするのです。僕らの敷地のすぐ下には、かつて段段畑だった場所があります。もう何十年も人の手が入っておらず一面篠竹におおわれ荒れ果てたところです。放置されたスギ、ヒノキの林分もあり広さは全部で一町歩ほど。僕は去年の春からそこを借り上げ開拓しています。篠を刈り払い、階段やウッドデッキを作り、東屋を建て、水を引きました。そうして少しづつ夢のキャンプ場が形になってきました。開拓作業はハードだけれど、仲間とともに汗を流し何もなかったところに少しづつ形ができていくのは何にも代えがたい喜びです。

もちろん開拓や森林作業も、プログラムとして参加者と一緒にやることもあります。そんな中で森の手入れや、様々な道具の使い方、昔の人たちの知恵などを伝えていくのが僕らの役割です。つまり自然学校とは、ただプログラムを提供していくだけの場所ではなく、それを通じて自分たちの「生き方、暮らし方」を考えてもらう「きっかけ」を提供する場所なのです。

「一度は登ってみたい。」とそんな欲求を抱えながらも、なかなか足が向かない。「何も休みの日にまで斜面を登らなかつたって」というのがその偽らざる気持ちである。だからたぶん、よっぽど勢いをつけて口実を作って機会を設けなければ、眺めているだけの南アルプスで終わってしまうに違いない。

梅雨が明ければ、まぎれもなく登山シーズン。せっかく伊那まで来ているのだから、一つくらいは登って天井の空気を吸ってみなきゃね。

山並みが

業績グラフに 見えた頃 嘘子

◆コラム◆

梅雨空の雲の隙間から緑に輝く山塊がのぞく。ここ伊那谷は南アルプスと中央アルプスの谷間なのだ。山小屋から街中に車を走らせれば、その

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp